

和歌山縣報

第千四百四十五號

明治四十五年二月六日

○縣令

○和歌山縣令第七號

荒廢地復舊費補助規程左記ノ通相定ム

明治四十五年二月六日

和歌山縣知事 川村 竹治

記

荒廢地復舊費補助規程

- 第一條 治水上重要ノ關係アル公有、社寺有及私有ニ屬スル保安林ノ荒廢復舊ノ爲左ノ事業ヲ爲シタルトキハ本規程ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス但シ砂防法ニ依ル砂防指定地、郡ニ於テ施行スル地盤保護植樹、森林法第二十八條ニ依リ補償ヲ受クル造林及公有林野造林補助規程ニ依リ補助ヲ受クル事業ニ就テハ此限ニ在ラス
- 一、地盤保護ノ爲工事ヲ施行シタルトキ
- 二、地盤保護ノ爲植樹シタルトキ
- 第二條 本規程ニ依リ補助金ヲ交付スヘキ工事及植樹ハ保安林内ノ荒廢地ニシテ森林法第二十七條ニ依リ復舊方法ノ指定ヲ受ケタルモノニ限ル

第三條 補助金ハ左記ノ標準ニ依リ事業ノ難易植栽費ノ多寡成績ノ良否等ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

一、地盤保護工事ニアリテハ其ノ經費ノ六分ノ五以内

一、地盤保護植樹ニアリテハ一町歩ニ付金十二圓以内ニシテ其ノ經費ノ四分ノ一以内

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號様式ノ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ前年度六月末日迄ニ知事ニ差出スヘシ

一、施業地實測又ハ見取圖(第二號様式)

二、會議録謄本及收支豫定書(市町村長又ハ町村組合長申請ノモノニ限ル)

三、保護工事(保護植樹)經費總計表及内譯表(第三、四、五、六號様式)

第五條 前條ノ申請ニ係ル事業ニシテ其ノ施設不適當ト認ムルトキハ更正ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 第四條ノ申請ニ對シ許可ヲ受ケタル後事業ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ年度内ニ事業ヲ實行シテ遲滯ナク知事ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ成功檢査ノ上補助金ヲ交付ス

第八條 事業ノ成績不良ニシテ地盤保護ノ目的ヲ達スルコト能ハスト認ムルモノハ補助金ヲ交付

セス但シ此ノ場合ニ於テハ更ニ事業ノ補足ヲ命ジ之ヲ完了シケル後ニ於テ補助スルコトアルヘシ

第九條 補助ヲ受ケタル者ハ事業施行後五ケ年間相當ノ手入ヲナス義務アルモノトス

手入ノ方法ニ關シ指揮ヲ受ケタルトキハ其ノ方法ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第十條 補助ヲ受ケタル後ト雖左ノ場合ニ於テハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

一、申請書ニ虚偽ノ記載ヲナシ其ノ他不正ノ行為アリタルコトヲ發見シタルトキ

一、本規程第九條ノ規定ニ違背シタルトキ
第十一條 本規程ニ依リ差出スヘキ書類ハ町村役場及郡市役所ヲ經由スヘシ

附 則 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年度ノ申請書差出期限ハ四十五年三月三十一日迄トス

(第一號様式)

荒廢地復舊費補助申請

何郡何村大字何字何何番

一、保安林面積何町步

此復舊事業費金何圓何拾錢也

右荒廢地復舊ノ爲前記ノ經費ヲ以テ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄ノ間ニ於テ地盤保護事業施行致度候ニ付相當補助相成度別紙經費總計表及内譯表並ニ圖面添付此段申請候也
明治何年何月何日

何郡市何町村長 何 某 印

又ハ何郡市何町村大字何番地 何 某 印

知 事 宛

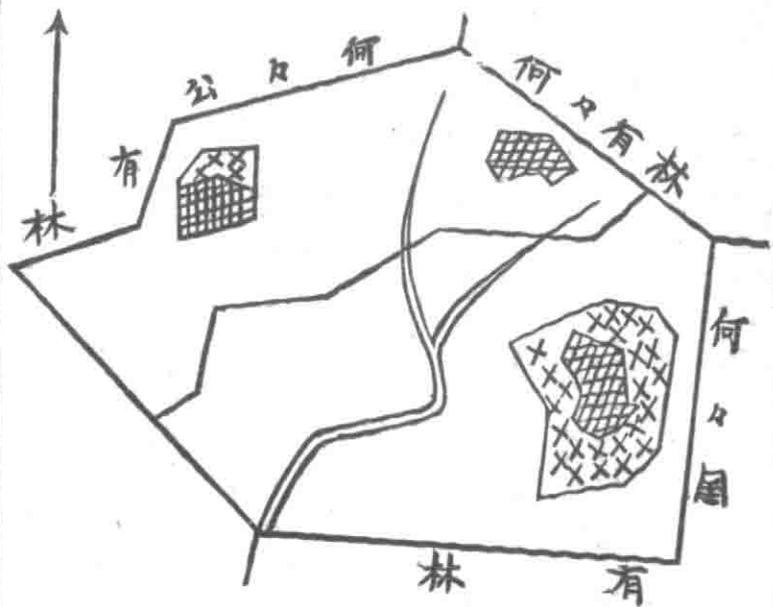
(注 意)

- 一、施業區域ノ異ナル毎ニ申請書ヲ區別スヘシ
- 二、出願人ト土地所有者ノ異ナル時ハ地主ノ連署ヲ要ス

(第二號樣式)

何郡何村大字何々山林(野原)何番又ハ(何番ノ内)
地盤保護工事(樹植保護)地業實測(取見)圖

縮尺何分一



境	護地	農地	道	河
	植盤	工盤	路	川
界	樹保	事保	路	川
(黑)	(綠)	(黃)	(朱)	(藍)
色)	色)	色)	色)	色)

(第三號樣式)

荒廢地々盤保護工事經費總計表

字	地番	地目	施業面積	工事種類	施業		經費	
					一坪當	總經費		
何	何	山林 (原野)	一〇〇 <small>坪</small>	積苗工	、	五五六	五五 <small>坪</small>	六〇〇
全	全	原野 (山林)	、	筋工	、	、	、	、
全	全	、	、	張芝工	、	、	、	、
計							五五	六〇〇

(第四號樣式)

地盤保護工事一坪當經費內譯表

(積苗工)

名稱	種類	數量	單價	金額	額	備考
苗木代	檀	三 <small>本</small>	〇〇二 <small>円</small>	〇〇六 <small>円</small>	〇〇六	山檀二年生チ用フ
芝代	山芝	二五 <small>枚</small>	〇一二	三〇〇	三〇〇	五枚重 長一尺二寸巾八寸厚二寸
肥料代	藁	一 <small>車</small>	〇五〇	〇五〇	〇五〇	植栽苗木ノ肥料トス
人夫賃		〇、二 <small>人</small>	五〇〇	一〇〇	一〇〇	打上人夫 土砂持込芝苗木植付仕上用

人夫賃	〇、二 ^八	五〇〇	一〇〇	法切一式仕上用
計			五五六	

(注意) 工事種類ノ異ナル毎ニ本表ニ準シテ別ニ調製スヘシ

(第五號様式)

荒廢地々盤保護植樹費總計表

字	地番	地目	植樹面積	一町步當單價	金額	額	備考
何	何	山林 (原野)	一〇〇〇〇〇	四三 ^円	九〇〇〇	四三 ^円 九〇〇	
全	全	原野 (山林)	、、、、、	、、	、、	、、	
計			一〇〇〇〇〇			四三 ^円 九〇〇	

(第六號様式)

地盤保護植樹一町步當經費内譯表

地目	數量	單價	金額	額	備考
苗木代	九、〇〇〇 ^本	^円	二七 ^円	〇〇〇	山橙苗木一本三厘
肥料代	木灰 三〇 ^匁		〇	九〇〇	一本ニ付三匁目宛

和歌山縣訓令第四號

○訓令

植付費	、四〇 _A	〇	四〇〇	一六	〇〇〇	一八二日二百五十本植付
計				四三	九〇〇	

出獄人保護規程左ノ通相定ム

明治四十五年二月六日

出獄人保護規程

和歌山縣知事 川村 竹 治

郡 役 所
 警 察 署
 警 察 分 署
 市 役 所
 町 村 役 場

第一條 本規程ハ出獄人ニ對シ保護監督ヲ加ヘ改過遷善セシムルヲ以テ目的トス

第二條 警察署長、全分署長及市町村長ハ犯罪ニ因リ處刑セラレ一定ノ刑期ヲ終ヘ又ハ特典若ハ職權アル者ノ命令ニ依リ釋放セラレタル出獄人中確實ナル保護者ナキ者ハ本規程依ニリ之ヲ保護スヘシ

第三條 警察署長、全分署長及市町村長ハ監獄法施行規則第百六十九條ニ依ル通知ヲ受ケタルト

キ及其ノ他保護ヲ要スル出獄人アルコトヲ認メタルトキハ其ノ保護ノ要否ヲ協議スヘシ其ノ保護ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第四條 警察署長、全分署長及市町村長又ハ保護監督ノ委任ヲ受ケタル者ハ常に被保護者ノ行狀並生活狀態ニ注意シ若業務ヲ怠リ又ハ不良ノ行爲ヲ爲シ若ハ不良ノ徒ト往來スルノ事實アルヲ認ムルトキハ之ニ戒飭ヲ加ヘ專ラ改過遷善ノ實ヲ舉グルコトニ努ムヘシ

第五條 市町村長ハ被保護者ニ對シ必要ニ應シ就業方法ヲ指示シ職業ヲ紹介シ居所ヲ周旋シ又ハ市町村内ニ於ケル公共ノ勞役ニ使役スル等努メテ授産ノ道ヲ講スヘシ

警察署長、全分署長ハ市町村長ニ於テ前項ノ規定ニ依リ指示、紹介、周旋等ヲ爲ストキハ之ニ助力スヘシ

第六條 警察署長、全分署長及市町村長ハ協議ノ上被保護者ノ保護ニ關シ其ノ親族、故舊又ハ神職、宗教家、教師、出獄人保護事業ニ従事スル者、其ノ他適當ノ者ニ其ノ保護、教導ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ其ノ囑託ヲ受ケタル者ヨリ毎月一回被保護者ノ行狀並生活狀態ヲ警察署長、全分署長ニ報告セシメ警察署長、全分署長ハ其ノ謄本ヲ市町村長ニ送附スヘシ

第七條 警察署長、全分署長ハ第六條ニ依リ保護監督ヲ委任シタル者ノ外受持巡查ヲシテ平素被保護者ノ行動ヲ觀察シ毎月末其ノ狀況ヲ報告セシメ同時ニ市町村長ニモ通告セシムヘシ

警察署長、全分署長、市町村長、前項ノ報告又ハ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ要領ヲ名簿ニ記入スヘシ前條第二項ノ報告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第一項ノ觀察ハ陰密ニ之ヲ行ヒ濫リヨ其ノ家ニ出入シ又ハ公然ノ場所ニ於テ其ノ行動ヲ尋問ス

考	參	保護ヲ引受 ケル者ノ住 所氏名	携 帶 金	出 監 時 ノ	交 際 者	關 係	親 族 ト ノ	教 育	宗 教 及
コト		保 護 方 法 、 改 ノ 狀 況 、 視 察 及 保 護 上 注 意 ス ヘ キ 点 其 他 參 考 ト ナ ル ヘ キ 事 項 ヲ 記 入 ス ル		境 遇	行 在 監 中 ノ 狀	手 段 方 法	犯 罪 ノ	原 因	犯 罪 ノ

(附録第二號様式)

自明治
至明治

年 年
月 月

出獄人保護成績表

何警察(分)署

備 考	月										種 別	越 人 員						
	計		月		月		月		月				別 別					
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男								
保護監督及觀察ノ狀況意見其ノ他考案トナルヘキ事項ヲ記載スルモノトス											出	獄	シ	タ	ル	者		
											入	縣	内	移	シ	タ	ル	者
												縣	外	移	シ	タ	ル	者
												計						
											出	保	護	シ	タ	ル	者	
												縣	内	移	シ	タ	ル	者
												縣	外	移	シ	タ	ル	者
												行	衛	不	明	ノ	者	
												再	入	監				
												死						
												計						
												差	引	現	在	數		
											狀	保	護	セ	ル	者		
												保	護	ノ	程	度	分	別
												要	要	正	業	依	ル	者
										況	視	察	ノ	要	ス	ル	者	
											改	改	ノ	情	ア	ル	者	
											情	情	ナ	キ				
											戒	加	ヘ	タ	ル	者		
											計							

○告示

○和歌山縣告示第四十二號

明治四十五年四月入學セシムヘキ本縣立和歌山高等女學校生徒ヲ募集ス入學志願ノ者ハ左記要項ヲ承知シ來ルル二月二十九日限願書(尋常小學校卒業若ハ卒業ノ見込ニ對シ出身學校長ノ証明ヲ要ス)ニ履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ當該學校長ニ差出スヘシ

明治四十五年二月六日

和歌山縣知事 川村竹治

一募集スヘキ生徒ノ種類及員數

本科第一學年 約百五十名

補習科 約三十名

一入學試驗場

和歌山市及海草郡現住志願者ニ在リテハ縣立和歌山高等女學校其ノ他ノ志願者ニ在リテハ所轄郡役所ニ於テ之ヲ行フ但シ本人ノ希望ニ依リ和歌山市及海草郡以外ノ志願者ト雖同校ニ於テ受驗スルコトヲ得此場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

裁縫科試驗及身體檢査ハ縣立和歌山高等女學校ニ於テノミ之ヲ行フ

一試驗期日

三月八日 (國語算術)

三月二十日 (裁縫試驗及身體檢査)

一入學願書履歷書ノ書式及入學志願者ノ資格等ハ明治四十二年二月和歌山縣令第十一號縣立和歌

山高等女學校規則ニ依ル

○和歌山縣告示第四十三號

明治二十五年二月文部省令第一號第二號ニ依リ退隱料ヲ請求スル者ヨシテ退職ノ際本俸ノ外加俸又ハ手當等ヲ受ケ居ルトキハ其ノ履歷書ニ右受給額ヲ記載スヘシ

明治四十五年二月六日

和歌山縣知事

川村竹治

○和歌山縣告示第四十四號

左記ノ者頭書ノ番號ヲ以テ本日和歌山縣產婆名簿ニ登錄ス

明治四十五年二月六日

和歌山縣知事

川村竹治

東牟婁郡三津ノ村大字日足三百三番地

和歌山縣平民

栗山ごみ

明治十三年七月生

第七六六號

○和歌山縣告示第四十五號

有田郡湯淺町大字湯淺六百六十八番地

開業產婆

花手ゆきへ

右ノ者今般轉住ノ旨ヲ以テ訂正願出ニ依リ本日左ノ通和歌山縣產婆名簿ヲ訂正ス

明治四十五年二月六日

和歌山縣知事

川村竹治

有田郡湯淺町大字湯淺六百五十五番地

○ 辞 令

○明治四十五年一月三十一日

依願免本官

月俸參拾五圓ヲ給ス

願ニ依リ職務ヲ免ス

願ニ依リ職務ヲ免ス

技手
土木技手

後藤徳次郎
後藤徳次郎

日高郡南部町上南部村岩代村學校組合
立日高第二實業學校助教諭心得

中道 幹
久保 政 三

和歌山縣日高郡南部町上南部村岩代村學校組合立日高第二實業學校助教諭心得ヲ命ス
月俸貳拾圓ヲ給ス

中道 幹

和歌山縣立農事試驗場技手ニ任ス
月俸貳拾五圓ヲ給ス

種藝部勤務ヲ命ス

○明治四十五年二月二日

和歌山縣立和歌山中學校助教諭心得ヲ命ス

月俸貳拾參圓ヲ給ス

吉野 龜 次 郎

○ 町 村 吏 員 ノ 異 動

○明治四十五年二月五日認可

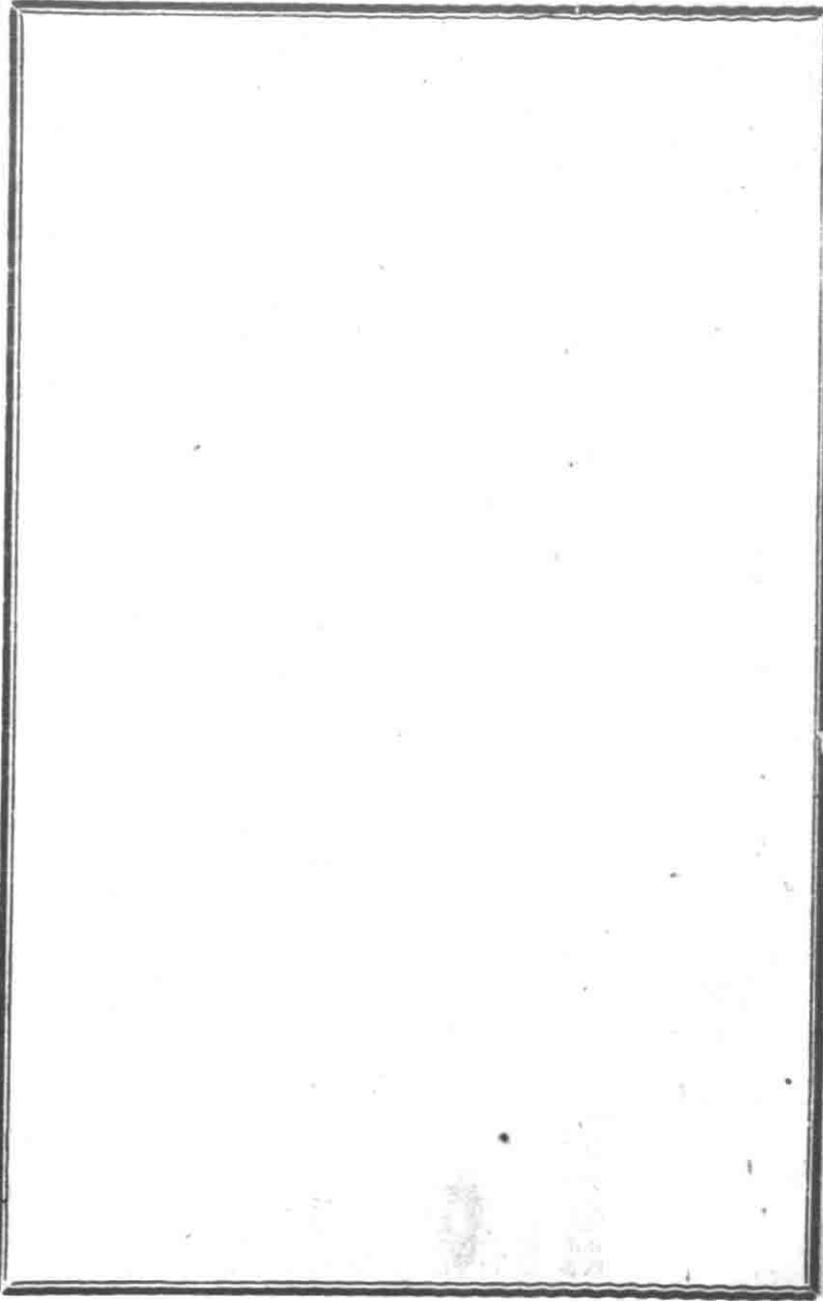
海草郡西和佐村長	岩橋喜次郎
海草郡有功村長	前田稔
伊都郡大谷村長	島本常三郎
有田郡箕島町々長	成川長一

○觀象

自二月一日至二月三日氣象

(和歌山測候所觀測)

種目	二月一日		二月二日		二月三日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均氣壓	七五四耗〇	七七〇耗九	七五六耗一	七六三耗四	七六〇耗二	七五四耗八
平均氣溫	八度五	四度〇	八度六	五度六	四度四	七度三
最高氣溫	一〇度七	一〇度七	一二度〇	八度五	六度八	一度四
最低氣溫	六度四	冰点下〇度九	五度八	三度二	一度八	五度六
最多風向	北々四	北東	西北四	北東	西北四	四
平均風力	一米五	二米三	三米二	一米七	五米一	五米七
天氣	曇	曇	半晴	曇少雨	晴微雪	半晴微雨
降水量				三耗二	〇耗〇	〇耗〇
記事雜象		曉間結霜夜間月暈ヲ映ス		午后時々小雨	朝間微雪	曉間并ニ晝間微雨午后四方ノ強風吹



明治四十五年二月六日印刷
明治四十五年二月七日發行

(毎月三日、九日、十五日、十八日、廿一日、廿四日、廿七日、三十日發行)

和歌山縣知事官房

印刷所 和歌山市北休賀町六番地
印刷人 關 宗 七
印刷部 關 浩 部